



るるるるる



2021年
8月
No.884

■発行所■
日本福音ルーテル教会事務局広報室
〒162-0842 東京都新宿区市谷砂土原町 1-1
電話 03-3260-8631
■ウェブサイト■ <https://jelc.or.jp/>
■E-mail■ jelc@jelc.or.jp
■発行人■ 李 明生 koho@jelc.or.jp
■印刷人■ 精文堂印刷株式会社
■定価■ 1部 40円（郵税を含む）
■振替口座■ 00190-7-71734

説教「あなたのそばにある平和」

日本福音ルーテル下関教会・厚狭教会・宇部教会牧師 中島共生

「わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。
これがわたしの掟である。」
（ヨハネによる福音書15章12節）



昨今の世界的なCOVID-19感染拡大にあつて、病院や施設を訪問する機会が減ってしまいました。ご家族さえ面会が厳しく制限されている状況に在つて、『お元気ですか』と訪ねてゆくことのままならない日常は、やはり平時とは異なると感ぜずにはいられません。施設によつては、市内の感染状況と照らし合わせながら面会制限の緩和がありま

すから、制限が緩和されたと報せを受けたならば訪ねてゆきます。

ある施設に入るAさんを訪問した時のことです。その施設では、施設内に

立ち入つての面会は許されておりませんでした。ですが、入り口の自動ドア越しにお顔を見ることが

できます。そして私の携帯電話と施設の電話とを繋ぎ、ガラス一枚を隔てではありますが近くに居ながらお話しすることができるよう配慮してくださいます。何度か訪問するうち、その方式にお互い慣れてきた頃のことです。面会の最後にはお祈りをするのですが、施設の職員さんが少しだけ、10センチほど自動ドアを開けてくださいました。そして私の手を消毒するように促し、『どうぞ、Aさんの手を

握つてあげてください』と言われたのです。

驚きと同時に、喜びがこみ上げてきました。その職員さんは、いつも面会を隣で見ている中で、お祈りは特別なものだと感じられたそうです。そしてぎつと手を握つたほうが良いと感じたと言ふのです。私たちは教会で、それぞれの生活の中で、祈ります。祈りがどれほどの力を持つているか、疑うことはなくとも、どれほどの力を確信しているでしょうか。しかし、祈り合う姿を見て、確かにそこには力があるのだと感じられた隣人がいたのです。

訪問の度に「教会の皆さんは元気ですか?」「教会は礼拝できていますか?」と繰り返し心配されるAさんの姿を見て、Aさんが本当に大切にしているもの、委ねているものが何であるかがはつきりと伝わつていたのです。

「わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。」この言葉は、イエスさまの告別説教と呼ばれる箇所の真ん中に記されています。弟子たちに託した、最後の教えの中心です。互いに、ですから、他者・隣人を愛することを教えています。そして隣人とは、自分の思い描く好き勝手な誰かのことではありません。イエスさまに敵意を向け十字架につけて殺した彼らを、それでもなお彼らをお赦しくださいと父なる神さまに祈るような、壁という壁を超えた先にいるような、そういう隣人です。

憎しみに対して憎しみをもつて対峙するのではなく、愛をもつて向き合つてゆく姿勢は、弟子たちを通して、そして2000年の時を超えて今の私たちに語られるイエスさまの大切な教えです。それが平和への道であるのです。

2000年、イエスさまが大切な教えを残されてから長い時が流れました。それでも、この世界は平和であるとは言えません。

6月にはミャンマーにおいて教会を標的とした砲撃が何度もありました。平和は、どれだけ手を延ばしても届かないようなところにあるとさえ思っています。

しかしイエスさまは、隣人を愛することを私たちに最も大切な掟として、一番近くに、いつでも振り返り、立ち帰ることのできる場所に置かれました。何故なら、平和は私たちのすぐそばにあるからです。

私たちが隣人へと愛を持つて接するとき、そこには確かにキリストの平和があります。とても小さいことかも知れません。

しかし、この小さな平和を信じられずに、どうして大きな平和を信じることができるでしょうか。イエスさまが示された、私たちにも祈り求めてゆくことのできる平和。隣人へと愛をもつて接することによつて、この世界に現わされてゆく平和。それは扉をたつた10センチ開けることしかできないものかも知れません。

しかし、この10センチが、確かにこの世界にキリストの平和があることを教えてくれているのだと思えてならないのです。

「神はわたしたちの避けどころ、わたしたちの砦、苦難のとき、必ずそこにいまして助けてくださる。」（詩編46:1）

「シャーツ」いきなり目の前のカーテンが閉められました。6人部屋に入院していた私は面食らいました。慌てた様子で白衣の先生が「検査で陽性が出たんだよね」と私に言い、そして部屋を個室に移つてもらわないとならないんだと何人かの看護師さんたちが私の荷物をガタガタとまとめ始めます。しかも普段どんなに私が不便そうにしているても一度も手伝ってくれなかった看護師さんまで手伝つて下さつて、「あら、ありがとう」と思

ながらあれよあれよとあつという間に部屋を移動しました。

部屋を移つてからは「触れるなキケン」扱いです。なるべく部屋から出ないように言われ、部屋に入つてくる看護師さんはビールのエプロンをかけ私の部屋を出たらエプロンを捨てていました。違う病棟に入院していた友人も私と親しく接触していたと言ふ理由で個室に移つたそうです。他の人にうつらないように看護師さんのためか私が悪いの?

これは10年前、インフルエンザの時の体験です。時々目に見えなくて触れられないものは恐怖や不安を私たちに抱かせます。私たちはあたたかも見えて触れられるものだけれしか安全ではないと思う時があります。でも目に見えて触れられるものも見えなくて触れられないものも全ては神様に守られています。決して恐れることはありません。



伊藤 天奈



全国ルーテル青年の集い「ぶれぶれ」一詳しくは4面をご覧ください。



議長室から 大柴謙治



韓国・巡礼の旅

「そのとき、イエスは言われた。『父よ、彼らをお赦しください。自分が何をしているのか知らないのです。』」(ルカ23・34)

1991年8月6日(火)〜13日(火)の「韓国・巡礼の

旅」(西教区・平和と核兵器廃絶を求める委員会「PN D主催」)からちょうど30年。暑い夏、忘れられない夏でした。「過去に目を閉ざす者は、現在に対しても目を閉ざす」(ヴァイツェッカー『荒れ野の40年』)。過去の過ちを繰り返

百年を前にして、過去の検証と罪責告白とを目的としたメタノイアの旅です。そしてそれは過去への旅でもあると同時に、新しい未来に向かつての旅でもあります。私たちを受け容れてくださるKLCをはじめ韓国の関

仙台から杉山昭男牧師と伊藤節彦氏後に参加者同志で「結婚後に牧師となられました。熊本から斉藤忠慎牧師、三鷹の神学校から永吉秀人チャプレン、白川道生、三浦知夫、白井真樹(NRK)など神学生ら総勢27名(3歳と1歳の我が子2人を含む)。8月6日、当時広島平和公園の「外」にあつた韓国人原爆犠牲者慰霊碑の前で祈りを捧げて旅は始まりました。関釜フェリーで釜山に渡り、慶州(チザレ園訪問)、ソウルと進みます。ソウルでは9日に三・一運動が始まった、バグダ公園、景福宮を巡

るように建てられていた旧朝鮮総督府の建物(当時ソウル国立中央博物館。1995年に解体撤去、10日に天安の独立記念館と堤岩里教会を訪問。記念館では「天皇の軍隊」による拷問場面が蟬人形で再現されていて、ちょうど見学に訪れていた小学生たちと共に見ることになった心痛は忘れられません。堤岩里の生き証人の田同禮(チョンドンネ)ハルモにはお会いできませんでしたがハルモは72年間毎日欠かさず事件のあつた午後2時に日本のために「彼らをお赦しください。何をしている

か分からずにいるのです」と十字架の祈りを捧げてくれた方です。そこで発せられた在日コリアン参加者の「私はどうしても日本人を赦せない」という悲痛な声と重なります。主の十字架による和解と平和を祈らずにはおれません。

差し出された手の温もりが忘れられません。私にとっての和解の体験でした。そして教員との昼食交流会。午後3時にはそこで韓国原爆被害者協会会長の辛泳洙(シンヨンズ)氏から被爆証言を伺いました。いずれの場所でも私たちは、自らが日本人であることを深く恥じたたまれない思ひになりました。しかしこれが私自身の原点となつています。アジア諸国と向かい合う時、過去の罪責を踏まえながら主の憐れみのうちに未来の和解に向かって共に歩みたいと願っています。(韓国巡礼の旅の報告書はルーテル学院大学図書館に収蔵)

ン教会最初の牧師です。彼女はCOVID-19で多くの教会がオンラインを使い始める数年前から、すでにこの働きに着手しています。

インターネット・プリーストとして活動を始めたのはいつからですか。

2016年です。スウェーデン教会が、ソーシャルメディアを利用して人々とのつながりを深めようとキャンペーンをやり始めたのが出発点です。話を進めていくうちに、信仰や教会の伝統に関する質問にオンラインで答えてみてはどうか、というアイデアが浮かびました。礼拝で祭服を着るのはなぜかとか、善と悪の問題のような牧会的な質問もあります。ソーシャルメディアは、答えを求める求道者と牧師が深く対話できる格好の場です。そういうやりとりなら、日曜日の朝の時間帯よりずっと多いですよ。(以下、次号につづく)

「教会讃美歌 増補」解説



⑭ルターのコラール

讃美歌委員会

日笠山吉之

(札幌教会牧師)

「讃美歌委員会からの声」が一巡りしましたので、いよいよ「増補(分冊1)」に収められる曲目の解説に入っていきたいと思ひます。まずは、最初の方に収録されるルターのコラール群の全体像についてお話ししましょう。

今回収められる全54曲

のうち、23曲はルターのコラールが占めています。コラールとは、賛美歌のこと。賛美歌は言うまでもなくまず歌詞があつてこそその賛美歌ですから、ルターのコラールと言つた場合もルター自身が歌詞を書いた賛美歌を指します。現行の「教会讃美歌」には、ルターが歌詞を書いたコラールが17曲収められています。それはルターが生涯に書いたと言われるコラールの半分にも満たないものでした。それで、今回はルターが作つたと言われるコラールはすべて収録しよう!という編集方針のも

と、試行錯誤しつつ成し遂げました。ルターが書いたオリジナルのドイツ語の歌詞を、単に日本語に訳し直すだけでなく、賛美歌として歌えるようにする作業は本当に大変だったのです。これだけでも、ルーテル教会はもとより日本の賛美歌界にも一つの貢献が出来たのではないかと思います。

ルターは神学者であるだけでなく、リユートをたしなむ音楽愛好家でもありましたので、作曲も出来ました。従つて、ルターのコラールの中には彼自身が作詞・作曲を

したものも幾つかあります。遂に「教会讃美歌」の中に収められた23番「天よりくだりて」や、450番「ちからなる神は」等は皆さんもよくご存知でしょう。今回の「増補(分冊1)」の中にも、ルター自身が作曲も手がけたコラールがかなり含まれています。あるいは、ルターが当時のカトリック教会で歌われていた聖歌や世俗の流行歌を編曲して歌えるようにしたものもありま



印象があるかもしれません。カトリックの良いとところはちゃんと認めて吸収したのです。それだけでなく、世俗的な歌まで取り入れて賛美歌に仕立ててしまうのですから、なかなか懐が深い人ですよ。それでは、次回から1曲ずつルターのコラールを取り上げていきましょう。

世界の教会の声

浅野直樹 Sr.(世界宣教主事
市ヶ谷・スオミ教会牧師)

スウェーデンのインター
ネット牧師①

ルーテル世界連盟(LWF)がスウェーデンのシャルロッテ・フルックランド牧師にインタビューした記事(2021年3月19日)を何回かに分けて紹介します。

(元の記事のURL)
<https://www.lutheranworld.org/news/sweden-internet-pastor-engages-faith-seekers-online>

シャルロッテ・フルックランド(Charlotte Frycklund)牧師は、スウェーデン教会(Church of Sweden)のソーシャルメディア上で牧会する「インターネット・プリースト(司祭)」として、コミュニケーション部門のスタッフと夜昼間わずなネットの人々を教会へつなぐ働きをしています。信仰、教会、神学など、簡単な質問から込み入ったものに至るまで答えながら折り、COVID-19という未曾有の時代と向き合っています。

フルックランド牧師は、ウェブの場を自身の牧会地とするスウェーデ



シャルロッテ・フルックランド牧師

パンデミックの中の教会

北海道特別教区の取り組みから

中島和喜
(恵み野教会牧師
札幌教会協力牧師)

となりました。初めはどれだけ人が来るのか予測もつかず、「夜の部は3名以下の場合には開講いたしません。」そんな保険をかけていました。そんな保険をかけてみると夜20名、朝20名、計40名が集まる大変賑やかな聖研となりました。

参加される方々はオンラインに慣れている方ばかりではありません。むしろZoomを初めて使うという方が多く、初めはサポートも必要でしたが、今となつては初めのころに接続がうまく繋がらず牧師が電話越しでサポートしつつ数十分格闘して何とか出来るようになった方が、今度は誰かに設定方法を教えて聖研に参加できるようにするなんて事も起り、人から人へ主の御業が広がっていく伝道の豊かさが表されていきました。

年齢層もバラバラ、地域も同じ北海道とは言え端から端まで400キロ以上。中にはドイツから参加される方もおられ、まさにオンラインだからこそ実現した聖研となり、同時にそこには新しい群れが生まれました。「コロナが納まつたらこの人たちと実際に集まりたい！」そんな思いが強められ、北海道特

別教区の繋がりは以前よりもより深いものになったように思います。実際に会って集うことができない現状でありますが、北海道特別教区はそんな中々集まるのが難しい教区でした。だからこそ、オンライン化によって以前よりもむしろ各教会の心の距離が縮まっていたように思います。画面越しでも共に豊かに集うことが出来る。それは中心に主のみ言葉があるからでしょう。改めて、主のみ言葉の力強さを味わうひと時となりました。

簡単に概要だけご報告いたします。〇修養会のテーマ「神学することゝ実存的な出会い」

〇修養会が目指すこと／自分の信仰のルーツと考える体験を互いに分かち合い、信仰とは私の人生においてどのようなものであったのか、そして、あるのかを考える。

6月7日 テーマ『私の信仰のルーツ』(1)証し(神学校教員1名、神学教育委員1名)(2)協議／グループに分かれて自分の信仰のルーツを共有し分かち合う。

6月8日 テーマ『私と神学』(1)ミニ講義「神学すること」(ルーテル学院大学学長石居基夫)(2)ワークシヨップ／グループに分かれ相互インタビュー形式により「聞く力、伝える力」を学ぶ。

6月8日 テーマ『私と神学』(1)ミニ講義「神学すること」(ルーテル学院大学学長石居基夫)(2)ワークシヨップ／グループに分かれ相互インタビュー形式により「聞く力、伝える力」を学ぶ。

6月8日 テーマ『私と神学』(1)ミニ講義「神学すること」(ルーテル学院大学学長石居基夫)(2)ワークシヨップ／グループに分かれ相互インタビュー形式により「聞く力、伝える力」を学ぶ。

6月8日 テーマ『私と神学』(1)ミニ講義「神学すること」(ルーテル学院大学学長石居基夫)(2)ワークシヨップ／グループに分かれ相互インタビュー形式により「聞く力、伝える力」を学ぶ。

6月8日 テーマ『私と神学』(1)ミニ講義「神学すること」(ルーテル学院大学学長石居基夫)(2)ワークシヨップ／グループに分かれ相互インタビュー形式により「聞く力、伝える力」を学ぶ。

6月8日 テーマ『私と神学』(1)ミニ講義「神学すること」(ルーテル学院大学学長石居基夫)(2)ワークシヨップ／グループに分かれ相互インタビュー形式により「聞く力、伝える力」を学ぶ。

神学生修養会報告と「献身者を求める祈り」の呼びかけとお願い

神学教育委員会
池永清(市ヶ谷教会)

「2021年度神学生修養会」が6月7日(月)、8日(火)いずれも9〜12時にルーテル神学校で開催されました。参加者は神学校の牧師養成コースに在籍する神学生全7名(現在すべてJELCでNRKは在籍者なし)、神学校教員、神学教育委員でオンライン参加も併用して行われました。以下に

「献身者を求める祈り」の呼びかけとお願い
私たち信徒は教会でみことばを聞き、交わりを持てることを何よりの喜びとしています。牧師はさまざまな形で神さまと私たちとの取り次ぎをしてくださいます。しかしその牧師が現在も将来的にも不足しています。

「献身者を求める祈り」の呼びかけとお願い
私たち信徒は教会でみことばを聞き、交わりを持てることを何よりの喜びとしています。牧師はさまざまな形で神さまと私たちとの取り次ぎをしてくださいます。しかしその牧師が現在も将来的にも不足しています。

「献身者を求める祈り」の呼びかけとお願い
私たち信徒は教会でみことばを聞き、交わりを持てることを何よりの喜びとしています。牧師はさまざまな形で神さまと私たちとの取り次ぎをしてくださいます。しかしその牧師が現在も将来的にも不足しています。

「献身者を求める祈り」の呼びかけとお願い
私たち信徒は教会でみことばを聞き、交わりを持てることを何よりの喜びとしています。牧師はさまざまな形で神さまと私たちとの取り次ぎをしてくださいます。しかしその牧師が現在も将来的にも不足しています。

「献身者を求める祈り」の呼びかけとお願い
私たち信徒は教会でみことばを聞き、交わりを持てることを何よりの喜びとしています。牧師はさまざまな形で神さまと私たちとの取り次ぎをしてくださいます。しかしその牧師が現在も将来的にも不足しています。

「献身者を求める祈り」の呼びかけとお願い
私たち信徒は教会でみことばを聞き、交わりを持てることを何よりの喜びとしています。牧師はさまざまな形で神さまと私たちとの取り次ぎをしてくださいます。しかしその牧師が現在も将来的にも不足しています。

「献身者を求める祈り」の呼びかけとお願い
私たち信徒は教会でみことばを聞き、交わりを持てることを何よりの喜びとしています。牧師はさまざまな形で神さまと私たちとの取り次ぎをしてくださいます。しかしその牧師が現在も将来的にも不足しています。

「献身者を求める祈り」の呼びかけとお願い
私たち信徒は教会でみことばを聞き、交わりを持てることを何よりの喜びとしています。牧師はさまざまな形で神さまと私たちとの取り次ぎをしてくださいます。しかしその牧師が現在も将来的にも不足しています。

「献身者を求める祈り」の呼びかけとお願い
私たち信徒は教会でみことばを聞き、交わりを持てることを何よりの喜びとしています。牧師はさまざまな形で神さまと私たちとの取り次ぎをしてくださいます。しかしその牧師が現在も将来的にも不足しています。

「献身者を求める祈り」の呼びかけとお願い
私たち信徒は教会でみことばを聞き、交わりを持てることを何よりの喜びとしています。牧師はさまざまな形で神さまと私たちとの取り次ぎをしてくださいます。しかしその牧師が現在も将来的にも不足しています。

「献身者を求める祈り」の呼びかけとお願い
私たち信徒は教会でみことばを聞き、交わりを持てることを何よりの喜びとしています。牧師はさまざまな形で神さまと私たちとの取り次ぎをしてくださいます。しかしその牧師が現在も将来的にも不足しています。

「献身者を求める祈り」の呼びかけとお願い
私たち信徒は教会でみことばを聞き、交わりを持てることを何よりの喜びとしています。牧師はさまざまな形で神さまと私たちとの取り次ぎをしてくださいます。しかしその牧師が現在も将来的にも不足しています。

「献身者を求める祈り」の呼びかけとお願い
私たち信徒は教会でみことばを聞き、交わりを持てることを何よりの喜びとしています。牧師はさまざまな形で神さまと私たちとの取り次ぎをしてくださいます。しかしその牧師が現在も将来的にも不足しています。

「献身者を求める祈り」の呼びかけとお願い
私たち信徒は教会でみことばを聞き、交わりを持てることを何よりの喜びとしています。牧師はさまざまな形で神さまと私たちとの取り次ぎをしてくださいます。しかしその牧師が現在も将来的にも不足しています。

「献身者を求める祈り」の呼びかけとお願い
私たち信徒は教会でみことばを聞き、交わりを持てることを何よりの喜びとしています。牧師はさまざまな形で神さまと私たちとの取り次ぎをしてくださいます。しかしその牧師が現在も将来的にも不足しています。

「献身者を求める祈り」の呼びかけとお願い
私たち信徒は教会でみことばを聞き、交わりを持てることを何よりの喜びとしています。牧師はさまざまな形で神さまと私たちとの取り次ぎをしてくださいます。しかしその牧師が現在も将来的にも不足しています。



4月、日本ルーテル神学校入学始業礼拝後にチャペルにて

連帯献金の呼びかけ

事務局長 滝田浩之

2021年度の連帯献金を呼びかけます。

今年度は「世界宣教のために」、「災害支援のために」、「喜望の家の働きのために」、以上の諸課題のために献金を呼びかけます。

「世界宣教」は「ブラジル宣教」については一区切りとなり、今後はアジアへの宣教について世界宣教委員会から提案される予定です。

また「災害支援」につきましては、日本福音ルーテル教会はACTJAPANに加入しています。国内外の災害に、迅速に対応していきます。このたびの豪雨被害についても「災害支援」としてお受けしています。ご支援をお願い申し上げます。

今回は、特に「喜望の家」の働きをご紹介いたします。関心を持って頂き、貴重な働きのためご支援を頂きますと幸いです。

喜望の家は、1976年11月、大阪市西成区の日雇い労働者の町、通称「釜ヶ崎」に、日本福音ルーテル教会によって設立された施設です。当初より、アルコール依存症およびギャンブル依存症の問題を持つ方々が回復していくための援助を行っています。

活動の内容は、毎週火曜日から土曜日まで、(1)依存症の問題を抱えている方々の居場所提供、(2)カウンセリングや作業療法など、依存症からの回復のためのプログラムの提供、(3)生活保護受給並びに受給後の生活相談などを行っています。また他にも(4)厳寒期の越冬夜回りの担当など、釜ヶ崎キリスト教協友会のメンバーとして共同で地域活動をしている、(5)依存症や教会のディアコニア運動に関する啓発活動などを行っています。

昨年は、COVID19感染に対する最初の緊急事態宣言の際には、週5日の活動日を週4日にするなどして対応しました。ただ利用者の方から「休館日が退屈で仕方がない」という話が出てからは、マスク着用、手指の消毒、室内では

3密にならないようにする、部屋の換気を心がけるなど、感染症予防策をしっかりと行つたうえで通常通りの活動をしています。とはいえず、食事会や外出レクリエーションなどのプログラムの流行が収まるまでは休止していますし、「宣言」が発令されればボランティアの方々の出入りも休止していただくなど、制限されることも多いのが現状です。ただ、高齢者の方々のワクチン接種も進んでいて、皆さんお元気に毎日を過ごしています。

喜望の家の活動紹介と現状報告

秋山仁

(喜望の家代表・豊中教会牧師)

いつも皆様には、お祈りとお支えをいただき、あり

3密にならないようにする、部屋の換気を心がけるなど、感染症予防策をしっかりと行つたうえで通常通りの活動をしています。とはいえず、食事会や外出レクリエーションなどのプログラムの流行が収まるまでは休止していますし、「宣言」が発令されればボランティアの方々の出入りも休止していただくなど、制限されることも多いのが現状です。ただ、高齢者の方々のワクチン接種も進んでいて、皆さんお元気に毎日

隔月でニュースレター「きぼう」を発行し、喜望の家の活動や様子、釜ヶ崎地域での出来事、依存症やディアコニア運動に関する啓発活動などの記事を掲載して、支援者の皆様のところにお届けしています。各教会にもお送りしていますので、是非お読みください。今後ともご支援をよろしく願っています。



喜望の家2020年越冬夜回り

